

単位根及び共和分検定による東アジア諸国通貨の定常性分析

一橋大学大学院生 王 志乾

本稿は単位根検定及び共和分検定といった分析手法を用いて東アジア諸国通貨の為替変動における定常性について検証を行った。実証分析の結果、2~9か国の修正 AMU 乖離指標によって構成される 502 通りの組み合わせのうち、50 通りの組み合わせは共和分システムの誤差項に系列相関が存在しないことがわかった。さらに、この 50 通りの組み合わせについて 3 種類の補足テストを行った結果、共和分関係にあると容認された組み合わせは日本・円とシンガポール・ドルとの組み合わせ及びインドネシア・ルピアとベトナム・ドンとの組み合わせのみであった。しかし、インドネシア・ルピアとベトナム・ドンとの組み合わせは、線形関係における符号は相反する為、共和分関係から除外された。よって、東アジア地域において、長期的に通貨の間に共和分関係が認められたのは日本・円とシンガポール・ドルとの組み合わせであった。これは、東アジア地域において多様な為替相場政策が採用されていることと関連する。各国は独自の為替相場政策の運営を行っているため、為替相場の間には発生するミスアライメントが長期的に収斂せず、地域通貨の為替変動には同調性が乏しいと推測できる。単位根及び共和分検定による東アジア諸国通貨の定常性分析を通じて、東アジア地域における諸国通貨の為替変動は域内他の通貨の為替変動との間に非対称的応答を示していることが明らかとなった。東アジア諸国通貨のミスアライメントを防止、あるいは早期発見するために、東アジア地域におけるサーベイランス・プロセスを早急に構築する必要がある。